

OPENWAY FT XSP 版 (Ver3.2 Rev20) リリースノート

OPENWAY FT XSP 版 (Ver3.2 Rev20) では、前バージョン (Ver3.2 Rev11) に対して、以下の仕様変更・改善、および、不具合対応を行っています。

《仕様変更・改善》

- 【1】 対話管理画面 B2、B6、C3 画面の一覧表示件数制限拡張**
OPENWAY FT 対話管理画面 B2 (進捗状況の表示／変更画面)、B6 (稼働実績照会画面)、C3 (管理ファイル項目表示画面) のファイル識別名一覧表示で、これまで最大表示件数が 2000 件だったものを、10000 件まで拡張しました。
- 【2】 OPENWAY FT ログの時系列出力対応**
OPENWAY FT ログ出力機能 (UFTPLOGF ユーティリティ) ではログファイルに格納されているレコード順にログを出力していたため、ログ書込みが一巡している場合、ログが時系列に出力されていなかったものを時系列に出力するよう修正しました。
- 【3】 キューイング依頼処理での RCV 項目指定任意**
キューイング依頼処理 (UFTPQUES) にて指定する“受信側 拡張後ファイル名” (RCV) を任意指定としました。これにより受信側ホストにて拡張後ファイルを指定できるようになりました。
- 【4】 コード変換ユーティリティ 無変換項目追加**
項目属性に ‘I’ (無変換項目) を追加しました。これにより特定項目のみ変換を行わず相手ホストとファイル転送することが可能となりました。
- 【5】 対話管理画面 B8 (リカバリ機能の停止) の修正**
リカバリ処理起動中のホストがない場合、初画面から B8 画面 (リカバリ機能の停止) を選択しても画面が変わらずメッセージも出力されなかったものを、画面を切り替え、“対象なし” というメッセージを出力するよう改善しました。
- 【6】 データ転送件数登録ユーティリティ UFTP CNT の改善**
入力ファイル (件数カウント対象ファイル) のレコード長の制限を 6000 バイトから 9999 バイトに拡張しました。また実行ジョブログの SYSOUT に入力ファイルのレコード長とデータ件数を出力するようにしました。
- 【7】 対話管理画面の改善**
未使用項目の削除、入力補佐のコメントを記述しました。また入力ミス時のエラーメッセージも分かりやすい文言に見直しました。

- 【8】 各種項目の入力チェック強化
対話管理画面、ユーティリティの各入力項目において、入力チェックを強化し、不当な値を入力できないようにしました。
- 【9】 ひな型 JCL の整備
送受信 JCL や各種ユーティリティのひな型、JCL 自動生成用パラメータのサンプルを整備しました。
- 【10】 コード変換ユーティリティの処理速度向上
コード変換ユーティリティ (UEMTUCVT, UEUTMCVT) において、変換アルゴリズムを見直しました。これにより、処理速度が3~5倍、向上しました。
- 【11】 FTP 結果判定処理の VTAM-G/TISP 対応
FTP 結果判定処理 (UFTPSCHK) において、判定対象とする FTP クライアントメッセージを VTAM-G/TISP 環境に最適化しました。
- 【12】 データ拡張ユーティリティの指定可能ファイル追加
データ拡張ユーティリティ (UFTPEXP) の拡張前ファイルは固定長ファイルのみ有効でしたが、可変長ファイルも拡張前ファイルとして指定可能となりました。
- 【13】 機能割愛
一部のバージョンで提供していましたが、代替手段がある等の理由により、Ver3.2 Rev20 より非提供とさせていただきます。
- 1) ログレポート出力ユーティリティ (UFTPLOG0、UFTPLOGA)
 - 2) ファイル識別名別リカバリ機能 (UFTPDONP)
 - 3) OPENWAY FT コマンド (OWFTCTLF、OWFTHOST、OWFTQUE、OWFTTRY)
 - 4) 回線制御機能

《不具合対応》

- 【1】 データ圧縮ユーティリティ UFTPCMP の 0C1 異常終了対応
データ圧縮処理において、連続した数値データが大量に (2 万件ほど) 存在していた場合、圧縮モード MODE2 でデータ圧縮すると内部で保持しているテーブルがオーバーフローし演算例外で異常終了するという不具合を、テーブルクリア処理を追加する修正を行うことで対応しました。

-
- 【2】 データ拡張ユーティリティ UFTPEXP の ACOS-4 版圧縮データ対応
OPENWAY FT ACOS-4 版で圧縮されたデータは、他機種版で圧縮された場合とフッター形式が異なっていた関係で、XSP 版ではエラーと認識しデータ拡張ができない場合がありますが、当バージョンより ACOS-4 版で圧縮されたデータも正常に拡張できるよう対応しました。
- 【3】 コード変換ユーティリティの 2 バイト文字変換ミス修正
WS コードから JEF コードへの変換において、2 バイト文字‘礪’は X’C5D7’に変換すべきところを X’CD57’に変換していた不具合を修正しました。
- 【4】 コード変換ユーティリティのバイナリー項目変換不具合対応
項目指定によるバイナリー (2進数) データ変換において、符号なしバイナリー数値が符号ありバイナリー数値の絶対値に変換されてしまう等の不具合があったものを、正しい値に変換するよう修正しました。
- 【5】 OWFTRECV の 0C7 異常終了対応
OPENWAY FT ソケットサーバ (OWFTRECV) の KUACPT 処理で、戻りコード EABCON 時に遷移する処理内で、管理ファイルに設定しているタイムアウト時間とカウンタ数値を比較する箇所があり、タイムアウト時間がスペースに設定されている場合、データ例外で異常終了するという不具合を、スペース時はデフォルト値 (600 秒) とみなすことで異常終了させず処理を継続するよう修正しました。
⇒ 前バージョンでも一度 (OWFT B1 画面にて) タイムアウト時間を設定すれば、当障害は発生しません。
- 【6】 OPENWAY FT ログの最終レコード出力漏れ対応
OPENWAY FT ログ出力機能 (UFTPLOGF ユーティリティ) で、最終レコードのログが出力対象から漏れていたのを出力対象とするよう修正しました。
- 【7】 対話管理画面のダイアログエラー修正
OPENWAY FT 対話管理画面 B6 (稼働実績照会) にて、未登録のファイル識別名を入力すると PFD ダイアログエラーが発生する現象を修正しました。

-以上-